

## 令和5年度中学校教育研究会（秋の公開）社会科・家庭科 授業の様子

単元名	南堀地区の方と協働して、地域の課題を解決しよう		
授業学級	2年D組（41名）	授業者	丸山 進一 ・小林 輝紀
研究アプローチ	II：プル・アプローチ		
教科の学び	社会科「地域の在り方」	家庭科「家族・家庭や地域との関わり」	

### 【本時の様子】

生徒たちは、南堀地区の課題を解決する方法を考えるために、「私の風土記」にまとめた南堀地区の地域的特色を基に、グループで意見交換をして追究していきました。

南北に長い地形と、人口分布が東西に分かれているという地域的特色に着目したグループは、地区の中心地にある場所での交流会を考えました。公民館、附属中学校、老人ホームが候補地にあがりましたが、ある生徒の「私の風土記」にあった「南堀地区の高齢者率は36%で、デイサービスの利用者も多い。」という区長さんから話を聞いた時のメモを見付け、交流会の実施場所を老人ホームと決め出しました。

また、かつて栄えていた養蚕業や果樹栽培、古くから寺社があるという地域的特色に着目したグループは、「地区の歴史を学ぶ地域散策」を考えました。附属長野学校園があるという特色も生かし、児童・生徒がガイド役を務めることで、地域の活性化に自分たちも貢献しようと考えていきました。

このように、社会科では、地域の課題を解決する方法を構想しました。本時の終末で、「考えた方法は、自分たちでできますか？」という教師からの問い掛けに「できるかな？」とつぶやいていた生徒たち。この後の家庭科の学びで具体的な方法を考えていきます。



グループ追究の様子    解決方法を決め出していく様子    全体追究の様子



本時の板書

## 【単元終末の R 生の姿】

R 生は、社会科の授業のまとめとして、自分なりの解決方法を以下のように考えました。

### 第8時の R 生

老人ホームを使った、高齢者と附中生の交流会を解決策として考えた。根拠は、老人ホームは地区の中心に位置しているため、東西両方の人が行き来しやすいということ。また、交通手段として長電を利用することで、地域の活性化や移動の利便性が図れると思った。

しかし、家庭科の学習で解決方法を具体的に考えていこうとした時に、「地域のことや、高齢者が本当に何に困っているのかが分からない。」と、社会科の資料だけでなく、地域をさらに知ることへの必要性を感じるようになりました。そこで、区長さんから「まずは、今ある交流会に参加してみるとよいと思う。」というアドバイスを受け、R 生のグループでは、「今行っている活動に参加させていただき、日常生活で困っていることを聞いてそれを手伝う」という活動を行うとよいと考えました。

### 第12時の R 生グループが考えた解決方法

今も地域の交流会を行っていることを知り、まずはその活動に参加し、さらに地域の様子や高齢者が困っていることを理解し、困っていることに対してお手伝いをする活動を決め出した。

活動名	お手伝いpeople
活動の目的 (解決したい課題)	高齢者の方々が本当に困っていることをお手伝いする ～困っていることを解決することでイベントにも参加しやすくなる～
活動場所	老人ホームなどの現在活動が行われている場所
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○今行っている活動に参加させていただき、日常生活で困っていることを聞いてそれを手伝う！！</li><li>○合唱などの持ち企画を行う→イベントを楽しんでもらう・また来てほしいと思ってもらえるようにする</li><li>○回覧板にチラシを載せる→年齢が上がっていくと黄色が見えづらくなるため、黄色は使わない。また、色ではなく絵を工夫し、目に留まりやすくする</li></ul>

## 【実際に地域の交流会に参加した生徒たち】



10月29日(日)南堀地区の交流会「お茶のみサロン」に有志6名が参加しました。参加生徒で考えた輪投げ、玉入れをし、地域の方々との交流を楽しみました。

「来てくれてありがとう。」「久しぶりに体を動かして楽しかったよ。」「また来てね。」という言葉に笑顔で応える生徒の姿がありました。

これからも継続して地域の行事に参加させていただく予定です。この学習を通して地域の方を笑顔にできたという達成感を味わった生徒たちが、あさひのプロジェクトにおいても、地域のためや、誰かの笑顔のための活動を考えていくことを期待しています。